

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第6回 旧川復元小委員会

資 料

平成17年8月3日

釧路湿原自然再生協議会事務局

釧路湿原自然再生協議会  
第6回 旧川復元小委員会

日時：平成 17 年 8 月 3 日（水） 10:00～12:00

場所：釧路地方合同庁舎 5F 共用第1会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

1) 茅沼地区旧川復元実施計画(案)

実施計画（案）の修正について-----資料1

「モニタリングによる検証」について-----資料2

3. その他

1) 達古武地域森林再生事業実施計画（素案）について---資料3

4. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会  
旧川復元小委員会 委員名簿

計:28名

個人(9名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	内島 邦秀	北見工業大学 工学部 教授
2	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
3	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
4	神田 房行	北海道教育大学 副学長(釧路校担当)
5	木村 勲	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 教授
7	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究科 教授
8	針生 勤	釧路市博物館 館長補佐
9	松本 文雄	

団体(10名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 濱 隆司
2	釧路自然保護協会	会長 高山末吉
3	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山口 功
4	釧路シャケの会	会長 林田 恒夫
5	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	顧問 濱 隆司
6	釧路生物談話会	代表 須摩 靖彦
7	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
8	下久著呂地区農業用排水維持管理組合	組合長 八木沢 栄蔵
9	タンチョウ保護調査連合	代表 正富 宏之
10	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道

オブザーバー(5団体)

(敬称略)

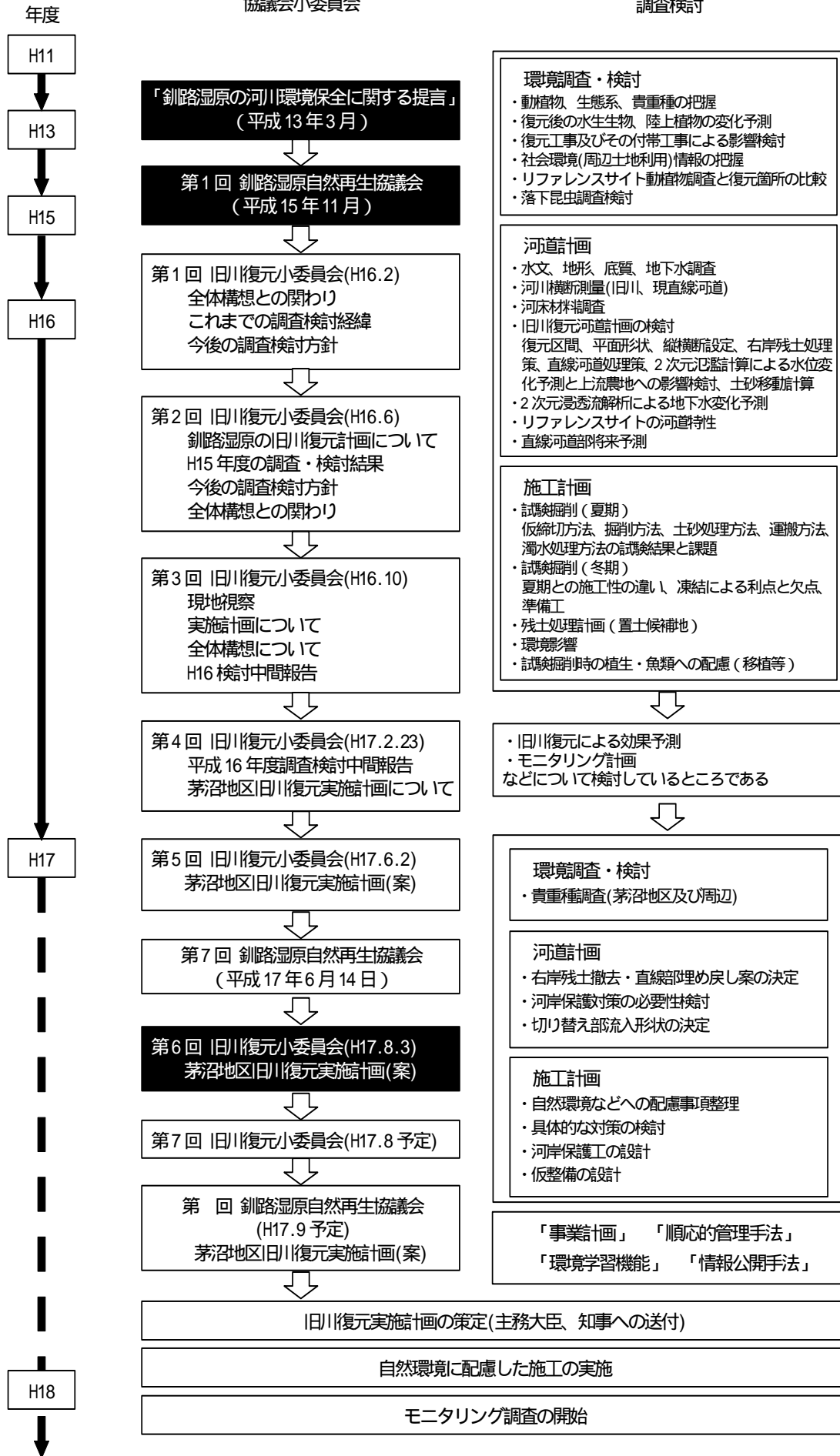
No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 小嶋 孝
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 門田 功一
3	鶴居村農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
4	幌呂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
5	標茶町商工会	会長 栗田 和行

関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 神保 正義
2	環境省 東北海道地区自然保護事務所	所長 星野 一昭
3	標茶町	町長 今西 猛
4	鶴居村	村長 日野浦 正志

旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画  
協議会小委員会 調査検討



議事概要と今後の対応方針～第5回旧川復元小委員会

	議事概要	「回答」及び今後の対応方針(案)
実施計画書(案)について	・釧路湿原における河川環境の目標に瀬淵の復元があるのはおかしい。 瀬淵の復元は、全体構想において釧路川流域全体の視点で見たときの話である。もちろん、湿原内部の川には該当しない。	・釧路川流域の目標であることがわかる文章に修正する。
	・実施に向けての配慮事項について、保全すべき種、区域を示すなども必要だと思う。また、移植先なども決めておいたほうが良い。	・検討の上、必要に応じて実施計画を修正する。
	・物理環境の予測について、底質はどのように予測しているのか説明をお願いしたい。 ・目標が達成されるのか？	・説明資料を作成し説明する。
	・河床形態の予測は専門的すぎるので一般の方にはわかりやすい表現を工夫して欲しい。	・砂州形状の違いと水理諸量の関係についてわかりやすい表現の仕方を検討する。 ・実施計画(案)を修正する。
	・落下昆虫量調査はどのように実施したのか説明をしていただきたい。	・説明資料を作成し説明する。
	・生物環境の予測は落下昆虫の調査だけでは不十分ではないか？今後、水生昆虫の調査なども実施したほうが良い。 ・もしくは、河岸植生延長の増加で説明すべき。	・今後の対応方針(調査計画案を含む)を作成し、専門委員の意見収集を行った上で実施計画案を修正する。
	・湿原植生の予測など、過去、現在、将来がどのようになるのかをわかりやすく表現して欲しい。	・イメージパースを作成するとともに、実施計画案を修正する。
	・景観の予測にフォトモンタージュを用いるとあるが、河道内の視点で水面をあげた写真だけでは、適当な表現ではない。	・既作成の、斜め写真の全景フォトモンタージュを改良する。 ・実施計画(案)を修正する。
・参考資料でもかまわないので、周辺農地に影響を与えないなど制約条件を整理し、実施区間の選定理由がわかるようにしたほうが良い。	・制約条件がわかるように図などを作成し、今後参考資料としてとりまとめる。	
その他	・湿原の面積を今後どう考えていくかまとめて欲しい。	・事務局で案を検討作成する。 ・湿原再生小委員会(ワーキング)で検討し、検討状況は旧川復元小委員会でも報告する。